

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

確かな学力と意欲・志、さらには、高いコミュニケーション能力に裏打ちされた豊かな「人間力」を持ち、社会に貢献できる生徒を育成する学校。地域に根付いた地域に愛される学校をめざす。

- それぞれの学力向上（「わかる、楽しい、規律ある授業」の展開、基礎的・基本的学力の定着、進学に向けた学力の向上）
- コミュニケーション能力の向上（ピア・メディエーションの取組など）
- 地域連携の推進

2 中期的目標

1 学力の向上

- 本校生徒にとって『わかる授業』『楽しい授業』『規律ある授業』が行えるように、教員の授業力を向上させる。
 - 本校勤務年数が少ない教員へのオン・ザ・ジョブ・トレーニング(OJT)が盛んに行われるような職場環境づくりを行う。
 - 教員相互の授業見学や研究授業を積極的に行う。
 - ICTを活用し、授業改善と業務軽減を行う。
- ※ ユニット研修において年間5回以上の研究授業を行い、研究協議する。
- ※ 生徒による学校教育自己診断において「授業が分かりやすい」という項目に対する肯定的な割合を増やす。(H27年度63%)
- 生徒の学習習慣を確立させることを通して、学習意欲を向上させる。
 - 生徒が放課後に校内で勉強できる場（自習室・図書室）を整備し、教員が生徒の個別指導を行える体制をつくる。
 - ※ 日々の放課後に自習室・図書館を利用して学習する生徒がいる状態にする。
 - ※ 生徒の遅刻を減らす。
 - ※ 生徒の読書習慣を確立する。
- 生徒一人一人の進路目標に合った学力（それぞれの学力）を育成する。
 - 義務教育段階の学力修得を目的とした茨田検定（振返り学習）・「一般教養講座」や、習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。
 - ※ 発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、授業以外の講習などを積極的に実施する。
 - ※ 生徒の進路に応じた講座を充実させ、進路希望を実現させる。
 - ※ 国際問題を絡めた英語教育
 - ※ 生徒の基礎学力を向上させることで、1年生・2年生の進級率を上げる。(H27年度1年77.2%・2年88.7%1月末)
 - ※ 進路決定未定者の割合を下げる。(H27年度8.8%)
 - ※ 就職試験一次合格者の合格率を上げる。(H27年度76.1%)

2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出

- 生徒のコミュニケーション能力向上を図ることにより、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。
 - 教員のコミュニケーション指導力を充実する。
 - ※ 生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。
 - ※ ピア・メディエーション（以下「PM」）クラブとコミュニケーションコースによる協同プロジェクトを立ち上げ、PM教育を牽引する。
 - ※ 教職員PM研修、PMステップアップ研修等を実施し、校内外におけるPMの理解促進及び普及を図る。
 - ※ 『コミュニケーションコース』の学校設定科目「コミュニケーション総合」の内容をより充実させ、コミュニケーション能力の更なる向上をめざす。
 - ※ English Speech Festival, English Day Camp を継続実施し、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。
 - ※ 進路指導を通してコミュニケーション能力の向上を図る。
 - ※ 活気ある学校づくりの一つとして部活動の活性化をめざす。
 - ※ 選挙年齢引き下げを考慮した生徒の意識改革。
 - ※ 合理的配慮ができる人を育てる。
 - ※ 作成した「PM」のテキストを、校内で活用するとともに、そのノウハウを他校にも普及させる。
 - ※ 志学や道徳教育との関連性を重視した独自のコミュニケーション教育を構築する。
 - ※ 学校教育自己診断にコミュニケーション能力に関する項目を入れ、80%以上の生徒がコミュニケーション能力の向上を実感できる学校にする。

3 地域連携の推進

- 地域連携を通じた生徒の成長
 - ※ 地域の活動に参加する。
 - ※ 地域の活動への参加回数を維持する。(H27年度16回)
 - ※ 地域の人々を学校に招聘する。
 - ※ 体育祭や文化祭、「いこいの広場」「地域交流エリア」等を利用して地域の人々を学校に招き、交流を持つ。
 - ※ 中学の部活動を招いて実施する「茨田カップ」の回数を増加させる。(H27年度2回)
 - 広報活動の充実
 - ※ HPの充実
 - ※ HPを1週間に1回の頻度で更新する。(現在2週間に1回程度)
 - ※ 茨田ニュースの発行を継続する。
 - ※ 学校説明会の充実
- ※学校説明会等における来校者人数を1000人に増やす。(H27年度570人)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(1) 生徒向け診断</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去4年間のうち今年度が最も肯定的回答の割合が多い項目が86%にのぼる。 特に学習内容に関する項目について、昨年度より肯定的回答が増えている。 回答状況から、生徒の部活動への参加を増やすことが課題。 <p>(2) 保護者向け診断</p> <ul style="list-style-type: none"> 回答状況について、過去4年間において肯定的回答の割合が毎年かなり変動している項目が多い。 「子どもが茨田高校に入学してよかった」の肯定的回答が80%近いことは評価すべき。 回答状況より、保護者の学校行事や授業参観等への参加を増やすことが課題。 <p>(3) 教員向け診断</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の質問項目の3/4において、肯定的回答割合が75%以上である。 質問において、内容が現在の本校における教育活動内容とズレがある項目が見受けられ、次回からの質問内容を再検討すべき。 	<p>【第1回】平成28年6月16日(木) テーマ：茨田高校の広報について</p> <ol style="list-style-type: none"> 本校の今までの広報活動について、学校説明会・刊行物・塾への広報・中学校訪問等に関して首席より説明。 協議委員からの意見 <ol style="list-style-type: none"> ①WEBページ（ホームページ）の充実 <ul style="list-style-type: none"> 検索エンジンで、「まった」を入れて検索上位に来るようにできないか。 ②パンフレットの充実 <ul style="list-style-type: none"> 掲載写真の白さをアップすればより明るく見える。 ③同窓会の活用 <ul style="list-style-type: none"> 学校近隣に住む卒業生が多いので、母校の評判を上げるように声掛けをしてもらえるようにする。 ④地域交流を通じた広報 <ul style="list-style-type: none"> 地域のお祭り等の行事に本校生徒が参加して活躍して認められれば、いい口コミが広がるのでは。その際に生徒への事前指導・事後指導により、生徒に交流をする事の意義を教えることが大切。 ⑤広報はお金をかければ簡単であるが、公立高校の現状は厳しい。2、3年という年数をかけて、いい口コミを増やし地道に取り組んでいくのが早道。

【第2回】平成28年11月10日(木) テーマ:本校の進路指導について

1、本校の首席より、今までの進路指導方針、昨年度・本年度の進路状況を概説し、卒業時における進路未定・フリーターの割合はここ4年間で1/3未満に減少したが、一方で次の2点が新たな課題として生じてきたことを説明。

①ミスマッチの解消(卒業後の早い段階での離職や退学を防ぐ)

②3年の2学期に進路変更をする生徒への対応

2、協議委員からの意見

①子どもに我慢する力をつけさせる必要がある。

・本来は小学校や中学校で養うべきものだが、高校を中退する子は基本的な生活習慣ができていない。その原因には家庭でのDVや過保護も考えられる。

・以前は地域住民のつながりが強く、子どもが近所で悪いことをしたらすぐにわかっていた。また、地域の子ども会活動では、子どもに「けが」をさせないのではなく、けがを経験させ痛みを味わうことで、してはいけないことを理解していた。

・学校ではいじめはないと思うが、社会には存在する。それが離職につながっているのではないか。就職先への聞き取り等により、生徒にそのようなこと(離職等)があると伝えることも必要。核家族や過保護によって子どもが環境に適応できなくなっているのでは。

・生徒の家庭環境を知り、それに合わせた指導が必要。しかし、個々のパーソナリティを考えつつ、教員側がどこまで突っ込んで指導を入れるかはとても難しい。

②学校での進路指導について

・いかに系統立てて将来を考えさせ、夢を持たせる指導を行うかが重要

・中学ではSPトランプを実施して、自分の性格や仕事、勉強の方法などを知るように指導している。

・成功例だけを見せすぎないように、夢をもたせながら失敗例も知らせること。

・現在の進路指導全般にガイダンス不足があり、生徒が具体的な将来像やキャリアステージが描けていないのでは。指導内容に求人票の見方や選び方、先輩の経験談を入れることも必要。

・技能職の就職を増やすことも考えては(生徒は「きれいな」接客を希望する傾向があるので)。

③卒業生の就職後の状況まで考えて対応を考えているのは「良い学校」である。

【第3回】平成29年2月23日 テーマ:本校における今後の教育活動

1、本年度の取り組みに関する説明・報告と質疑応答

(1) 広報活動について (2) 進路指導について

(3) 学校教育自己診断の結果について

2、協議委員による協議

・本校の特色であるコミュニケーション教育の一層の充実を図ると共に、コミュニケーション能力を使って、その次に実現したいことを明確にしていくべき。

・本校生徒の状況にマッチした、生徒の意思を尊重した進路指導の実施。

・本校の対外的評価を高めるために、現在の本校における様々な教育活動を、「コミュニケーション」を軸として体系化する意識が必要。今までの取り組みに自信を持ち、その質を高めていくように。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上	<p>(1)『わかる・楽しい・規律ある授業』を実現するための教員の授業力向上</p> <p>ア 本校勤務年数が少ない教員へのOJTの実施</p> <p>イ ユニット研修や研究授業の充実</p> <p>ウ ICTを活用した授業改善と業務軽減</p> <p>(2) 生徒の学習習慣確立を通じた学習意欲の向上</p> <p>ア 生徒が放課後に校内で勉強できる場(自習室・図書館)を整備したうえで、教員が生徒を個別指導できる体制をつくる。</p> <p>イ 生徒の遅刻を減らす。</p> <p>ウ 生徒の読書習慣を確立する。</p> <p>(3) 生徒個々の進路目標に合った学力を育成する。</p> <p>ア 義務教育段階の学力習得を目的とした「茨田検定(振り返り学習)」「一般教養講座」、習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。</p> <p>イ 発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、放課後等の講習を積極的に実施する。</p> <p>ウ 生徒の進路に応じた講座を充実させ、進路希望を実現する。</p> <p>エ 国際問題を絡めた英語教育</p>	<p>(1)</p> <p>ア・担当首席を中心に管理職や分掌長等が講師となって、若手育成に当たっている研修組織(青葉会)を、本校勤務年数が少ない教員へも拡大する。</p> <p>・本校勤務年数が少ない教員に対して、年度当初に授業規律の確立を重点的に指導する。</p> <p>・年度当初に、ユニバーサルデザインの観点に即した教室整備を行う。</p> <p>イ・教員全員を、教科や教職経験年数等で偏らないグループ(ユニット)に分け、各ユニットで初任者研究授業や授業力向上に関連する研修、公開授業、研究協議を企画実施し、その成果を校内で共有(ユニット研修)。</p> <p>・ユニバーサルデザイン授業の取組みを実施することで、本校生徒の理解がより深まる授業を行う。</p> <p>ウ・校内の視聴覚機器、大型プリンター等を活用して、ユニバーサル授業の観点に立った教材作成を行う。</p> <p>・生徒による学校教育自己診断の結果を検証して授業力向上へ結びつける方策を確立する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・放課後に、自習室と図書室へ教員が必ず常駐し、生徒に対する個別学習指導にあたる。</p> <p>・定期考査前の学習や長期休業期間後の課題学習など、特定の時期に応じた生徒の個別学習を充実させるように、各教科が教材準備や指導を行う。</p> <p>イ・遅刻の回数に応じて、担任、学年主任、首席、教頭、校長による説諭を行う。</p> <p>・遅刻の回数に応じて、学年による放課後清掃指導等を行う。</p> <p>ウ・毎日の終礼、総合的な学習の時間、LHR、基礎教養などの時間を利用して、年間を通じた「10分間読書」活動を企画実施する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・「茨田検定」を全学年で年度当初から計画的な問題作成と冊子化に取り組み、一般教養的内容を取り込む。</p> <p>・成績不振者への指名補習、個別指導を充実させる。</p> <p>イ・2・3年生で学業成績に基づくクラス編成を実施し、成績の推移を分析しながら、各授業で生徒の学力向上をはかる。</p> <p>・外部機関の資格試験(漢検・英検・P検(パソコン検定・数検)等)を活用して、生徒の学力向上とキャリアアップを図る。</p> <p>・発展・応用的学力の習得をめざす講習を、1年生から実施する。</p> <p>ウ・進学希望者に対して、進路希望に応じた多様な講習を1年生から実施する。</p> <p>・就職希望者に対して、インターンシップや試験対策講座を2年生から実施する。</p> <p>エ・実用英会話の授業において諸外国調べ、プレゼンテーションの実施。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・拡大した青葉会の研修を年間で12回実施する。</p> <p>・年度当初の授業見学において、次の2点を重点的に指導する。(授業規律)</p> <p>生徒の机上の整理整頓(ユニバーサルデザイン)</p> <p>教室の掲示物・板書の状況</p> <p>・毎週学年会を開催し点検事項の確認を行う。</p> <p>イ・初任者研究授業・公開授業の実施とその後の研究協議を6回実施。</p> <p>・年度末に各ユニットの研修成果を発表する機会(プレゼン)を設け、校内での共有化を図る。</p> <p>・ユニバーサルデザイン授業に関する研修等に年間3回参加する。</p> <p>ウ・生徒による学校教育自己診断において「授業が分かりやすい」という項目に対する肯定的な割合を70%以上にする。H27(63%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・自習室を100日以上開室する。H27(126日)</p> <p>・学校教育自己診断の「日常的に放課後学校で学習したり、家庭で学習している」の項目に肯定的な答えを出す生徒の割合を50%にする。H27(44%)</p> <p>イ・年間遅刻総数を10000人以下に減少させる。H27(12217人)</p> <p>ウ・「10分間読書」を年間で10日実施する。H27(10日)</p> <p>(3)</p> <p>ア・全学年の茨田検定を継続</p> <p>・各中間考査後と夏季・冬季休業期間中に、座学教科で成績不振者への指名補習を実施する。</p> <p>・1年生、2年生の進級率をそれぞれ90%以上にする。</p> <p>イ・1年生全員が英語検定を受験するよう指導する。H27 全員受検</p> <p>・各種外部機関の資格試験総受検者と総合格者を今年度より増加させる。(H27年度の総受検者664人、総合格者298人)</p> <p>ウ・1・2年の進学、就職希望者対象の各種講習について、開講講座数と講習への総参加者を、今年度より増加させる。(H27年度の開講講座数7、総参加者42人)</p> <p>・進路決定未定者の割合を10%以下にする。(H27年度8.8%)</p> <p>・就職試験一次合格者の合格率を70%以上にする。(H27年度76.1%)</p>	<p>ア・12回 実施(○)</p> <p>・授業開始後5分の規律指導を行う(△)</p> <p>全教員に徹底させることが課題</p> <p>・各教室掲示物の整理を担当が行い、見やすい環境が整っている(○)</p> <p>・学年会を毎週月曜日に開催。(○)</p> <p>イ・初任者研究授業を対象としたユニット研修を研究協議5回総括1回の計6回実施。観察する観点を明確にするなど質が向上した。(○)</p> <p>・UD授業に特化した研究授業を2回実施。</p> <p>・研修や支援学校の公開授業、京都教育大での研修に参加。(○)</p> <p>ウ・プロジェクターを6台追加。ICTを使った授業が多くみられる。「授業がわかりやすい」という項目に対する肯定的な割合は71%。H27(63%)(○)29年度は80%が目標</p> <p>(2)</p> <p>ア自習室158日の開室(○)</p> <p>・図書室の開館日は昨年と変わらず。考査前の教員付添が充実。(○)</p> <p>・肯定的な回答48%(H27前回44%)</p> <p>イ・遅刻数昨年度比20%減が目標だが10%減。在籍者数は増加しているが遅刻総数は年々減少している。H28年10600人13.2%減(△)</p> <p>ウ・5,11月実施。合計10回(○)。広報・本の選定など図書委員が積極的に読書週間に関わった(○)</p> <p>(3)</p> <p>ア・3学年冊子が完成。(○)</p> <p>・成績不振者補習は充実。制度として定着した。</p> <p>・進級率は1年生77%、2年生90%(△)</p> <p>イ</p> <p>・国、数、英、小論文、看護系進学対策、就職対策の講習を通年実施中(○)</p> <p>・漢検31名</p> <p>英検209名</p> <p>P検0名 数検1名の合格(△)</p> <p>※結果は3月末</p> <p>ウ</p> <p>・開講講座数12、総参加者220人(進学20就職200)</p> <p>・進路未決定者は14名、割合は、7.5%(△)</p> <p>・就職試験1次合格率は、62.1%である。2次以降で内定をもらっている。(○)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出</p>	<p>(1) 生徒のコミュニケーション能力向上を図ることにより、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。</p> <p>ア 教員のコミュニケーション指導力を充実する。</p> <p>イ 生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>ウ ピアメディアエーション(以下「PM」)クラブとコミュニケーションコースによる協同プロジェクトを立ち上げPM教育を牽引する。</p> <p>エ 教職員PM研修、PMステップアップ研修等を実施し、校外におけるPMの理解促進、普及を図る。</p> <p>オ 『コミュニケーションコース』の学校設定科目「コミュニケーション総合」「PMⅠ」「PMⅡ」の内容をより充実させる。</p> <p>カ English Speech Festival, English Day Camp を継続実施し、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>キ 進路指導を通してコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>ク 活気ある学校づくりの一つとして部活動の活性化をめざす。</p> <p>ケ 選挙年齢引き下げを考慮した生徒の意識改革。</p> <p>コ 合理的配慮ができる人を育てる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・定例のコミュニケーション委員会とコミュニケーションコース担当者会議で、生徒のコミュニケーション能力向上の取組強化対策を立案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員それぞれが、生徒のコミュニケーション能力向上のための取組を行い、その内容と効果を集約して全教員で共有するとともに、特に優れた取組については本人によるプレゼンを行い、全体化することで、教員のコミュニケーション指導力を向上する。 ・PMの技法を応用し、自分を大切に、他者を理解することをベースとした生徒指導を展開する。 <p>イ・校内の「あいさつ通り」を活用し、集会時、授業時でのあいさつ指導とともに全校的な指導を徹底した上で、その効果をアンケートで確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションをテーマとしたホームルーム(「コミュニケーションHR」)を実施し、志学と連携したコミュニケーション教育を充実する。 ・生徒によるプレゼンイベントを実施する。 <p>ウ・PMクラブを活性化するとともに、コミュニケーションコースと連動したPMプレゼンテーションプログラムを開発し、校外で活用する。</p> <p>エ・「PM」のテキストを活用し、教職員PM研修を校内で実施するとともに、教職員PM講習会を実施し、校外にも普及を図る。</p> <p>オ・「コミュニケーション総合」で落語家などの著名人や大学教授等を招き、充実したコミュニケーション教育を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「PMⅠ」「PMⅡ」の授業内容を整理し、教材及び指導方法を確立、継承する。 ・「PMⅠ」「PMⅡ」履修生徒の中からNPO法人シヴィルプロネット関西によるメディアーター認定試験の合格者を出す。 <p>カ・English Speech Festival の継続実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・English Day Camp の継続実施。 <p>キ・生徒が職場訪問し、職場の人とコミュニケーションを取る機会を増やす。</p> <p>ク・体験入部等年度当初の新入部員獲得に向けた行事の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携を活用した部活動の活性化。 ・文化部の発表の場として、近隣中学や住民を招待したイベント「茨田フェス」の継続開催。 ・「部活動の日」(毎週金曜日/生徒、教員共に、部活動への参加を促す取組み)のさらなる充実。 <p>ケ 政治的教養を育む教育の計画的な実施。</p> <p>コ 障がい者との交流の場の設定、障がい者差別解消法の趣旨を理解させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・コミュニケーション委員会を年20回以上、コミュニケーション担当者会議を年5回(年度初め、各学期、年度終わり)開催。</p> <p>H27(5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議で教員による「コミュニケーション能力向上取組プレゼン」を年2回実施。H27(2回) ・教職員PM研修で全教職員が「聴く技術」を学ぶプログラムを入れ、年1回実施。 <p>H27(1回)</p> <p>イ・25項目のコミュニケーション能力アンケートを年2回実施し、20項目以上での数値向上。</p> <p>H27(19項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションHRを年3回実施。 ・生徒会活動と連携し、プレゼンイベントを年1回実施。 <p>H27(実施せず)</p> <p>ウ・PMプレゼンテーションプログラムを充実し「人権文化交流発表会」や学校説明会などで年3回発表。(H27年度は人権文化交流発表会などで2回発表)</p> <p>エ・教職員PM研修を校内で年1回実施。(アの内容を含む) H27(1回)</p> <p>オ・コミュニケーションコース選択生徒アンケートで「コースで学んで話し方や行動が変わった」と答えた生徒の割合を80%以上(H27年度91%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「PMⅠ」「PMⅡ」を担当できる教員を養成し、2名以上確保。(H27年度2名確保) ・メディアーター認定証取得者10名以上。(H27年度5名) <p>カ・English Speech Festival の継続実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・English Day Camp の継続実施。 <p>キ・学校幹旋就職希望生徒全員に応募前職場見学の実施</p> <p>ク・入部率を50%にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茨田フェス年に1回開催 <p>ケ・1年1h、2年4hの実施</p> <p>コ・年1回の交流会実施</p>	<p>ア・コミュニケーション委員会は年25回、コミュニケーションコース担当者会議は年5回開催された。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員による取組プレゼンは年2回実施。(○) ・聴く技術を含むコミュニケーション技法を全教職員で学ぶ教職員PM研修を年1回実施。※2月に実施予定(○) <p>イ・数値が向上したのは20項目。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションHRを年3回実施。特に第1学年については年4回実施(◎) ・生徒会主催の「文化のつどい」にPM部員が参加し、ポスター発表をしたが、プレゼンイベントは実施できず。(△) <p>ウ・パワーポイントによるPMプレゼンテーションを作成し、PM部員が年2回(人権文化交流発表会、寝屋川支援学校交流会)PMを紹介。(△)</p> <p>エ・教職員PM研修を2月4日に実施。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国教育庁・大教大・倉敷市立高校2校へのPM取組み紹介(○) ・教育センター主催の「学校教育相談実技研修A」(2日間)の内1日を、本校がこれまで主催してきた「教職員PM講習会」の内容で行い、講師として本校教員を2名派遣。(◎) <p>オ・「コースで学んで話し方や行動が変わった」と答えた生徒は98.8%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「PMⅠ」「PMⅡ」とともに本校教員2名で担当。(○) ・メディアーター認定証取得者8名。(受験者は27名)(△) <p>カ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・English Speech Festival 12月17日実施(○) ・International Dayとして9月26日実施(○) <p>キ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年ジュニアインターンシップの参加者は37名24社 ・<H27 12名(10社)>であった。(△) ・応募前職場見学261人157社 ・<H27 140社> <p>ク・入部率16%(△) H27 28%</p> <p>ケ・選管から用具一式借りての2・3年生模擬投票実施。(○)</p> <p>コ 生活福祉の授業で近隣の高齢者施設との交流4回。支援学校、障がい者施設との交流各1回(○)</p>
---	--	---	--	--

<p>3 地域連携の推進</p>	<p>(1) 地域連携を通して生徒の成長を促す ア 地域活動に参加する。 イ 地域の人々を学校に招聘する。</p> <p>(2) 広報活動の充実 ア HPの充実 イ 茨田ニュースの発行を継続する。 ウ 学校説明会の充実</p>	<p>1) ア 地域活動への参加回数を維持する。(H26年度16回) イ・体育祭や文化祭、「いこいの広場」「地域交流エリア」等を利用して地域の人々を学校に招き、交流を持つ。 ・中学の部活動を招いて実施する「茨田カップ」の回数を増加させる。(H26年度2回) ・今年度もPTA文化教室に地域の方の参加枠を設ける。</p> <p>(2) ア HPを1週間に1回更新する。(H26年2週に1回程度) イ 茨田ニュースの発行回数(年間4回)を維持する。 ウ 学校説明会等における来校者の合計人数を1000人に増やす。(H27年度570人)</p>	<p>1) ア 地域活動への参加回数16回 H27(19回) イ・年間1回以上の招聘を行う。 H27(1回) ・年間3回以上の開催。 H27(2回) ・年1回の実施。 H27(1回)</p> <p>(2) ア・1週間に1回の更新をする。 イ・4回以上の発行(web上も含む) H27(4回) ウ・来校者の合計人数を1000人に増やす。</p>	<p>(1) ア 16回(O) H27 16回 イ・2月11日に鶴見緑地公園で地域との交流イベント茨田フェス開催(O) ・茨田カップ年2回開催(Δ) ・文化教室実施21名参加(O) ・茨田高ツアー12名参加(O)</p> <p>(2) ア 1週間に1回の更新。(O) イ HPの更新を週1回行えたため茨田ニュースは発行せず(Δ) ウ 653人(H27 570人)(Δ) 学校説明会18回実施(校内7回)(O)</p>
----------------------	---	---	---	--